

第 18 回日・中米「対話と協力」フォーラム
共同コミュニケ
(日本語仮訳)

2019年12月3日
エルサルバドル、アンティグオ・グスカトラン

1. 2019 年 12 月 3 日、エルサルバドルのアンティグオ・グスカトランにて、中米統合機構（以下「SICA」）諸国の外務次官等各国代表、日本の外務省中南米局長及び SICA 事務局長との間で、第 18 回日・中米「対話と協力」フォーラムを開催した。
2. 日本は、SICA 諸国（グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア及びコスタリカ）の独立 200 周年記念及び中米機構（ODECA）憲章署名 30 周年記念に向けた準備を歓迎。
3. 日・中米「対話と協力」フォーラム設立 25 周年及び SICA オブザーバー国としての日本の加盟 10 周年を祝し、国民及び政府の間で維持されてきたつながりをあらためて認識し、これを促進する活動をともに行うことで一致。
4. SICA 加盟国は、日本に対し、2019 年 10 月 22 日に東京の皇居において挙行された即位礼正殿の儀について祝意を表明。
5. 双方は、国際社会の平和及び繁栄の維持推進に向けた決意並びに SICA の強化、加盟国の統合発展、民主主義の促進と尊重、法の支配、人権及び国際法の原則へのコミットメントへの決意を再確認。
6. 法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序を重視する「自由で開かれたインド太平洋」という日本のビジョンに基づく概念について、SICA 加盟国は日本側より表明された考え方を傾聴。
7. SICA 加盟国は、日本に対し、2019 年 6 月 28 日及び 29 日に、「質の高いインフラ投資に関する G20 原則」が採択された G20 大阪サミットが開催されたことにつき、日本に対する祝意を表明。
8. 双方は、SICA 地域統合プロセスに関する社会統合、経済統合、リスクの包括的管理と気候変動、民主的安全保障、地域制度の強化という 5 つの優先事項のテーマに関し、取組を深め、協働することで一致。
9. 双方は、上記 5 つの優先事項が、持続可能な開発のための 2030 アジェンダ及びパリ協定と密接に関係する旨強調し、アデイス・アベバ行動目標に示されるように、その適用には適切な手段を利用することが重要である旨強調。
10. SICA 加盟国は、主に「SICA-JICA 地域協力アクション・プラン 2015-2020 年」の実施を通じた日本による SICA 地域への二国間及び地域間協力を感謝の意を表するとともに、これまでの進展に対する満足の意を表明。また、物流とロジスティックス、インフラ部門での気候変動、生態系保全、ジェンダー及び農村開発に焦点を当てたイニシアティブに対し、感謝の意を表明。

- 1 1. SICA 加盟国及び日本は、JICA、中米運輸交通大臣会合（COMITRAN）及び中米経済統合一般条約常設事務局（SIECA）による会議の枠組で 2018 年 12 月に採択された協定に対する祝意を表明。また、SICA 加盟国日本政府に対し、「物流ロジスティックスの地域マスタープラン 2021-2035」策定に係る支援に関し感謝の意を表明。同マスタープランは日本の技術協力により策定されたものであり、2019 年 10 月 25 日にエルサルバドルで開催された第三回中米経済・運輸・財務大臣会議でロードマップを承認。
- 1 2. 日本は SICA 諸国に対し、特に地上デジタルテレビ日伯方式採用国（コスタリカ、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア及びエルサルバドル）において、国毎に異なる段階にあるアナログ方式から地デジ方式への移行プロセス及び緊急警報放送システム（英語表記は、Emergency Warning Broadcasting System , EWBS）導入に向けた取組を始めとする情報通信技術分野における進歩を評価。
- 1 3. SICA 加盟国は、2015 年 3 月に日本で開催された第三回国連防災世界会議の結果として、「仙台防災枠組 2015-2030」と調和した災害リスクの包括的管理のための中米政策（PCGIR）及び地域気候変動戦略の実施を歓迎。
- 1 4. SICA 加盟国は、「SICA ジェンダー政策策定・実施モニタリング・評価能力体制強化アドバイザー」の将来の成果に対する関心を表明。同計画は、2015 年 2 月の第 17 回日・中米「対話と協力」フォーラムにおいて女性のエンパワーメント及びジェンダー平等を目指し日本が表明した SICA 加盟国との協力強化の意思を支持するものとして、中米・ドミニカ共和国女性大臣会合技術事務局（STM-COMMCA）により実施される。
- 1 5. 双方は、地域協力を強化する意思を表明し、地域協力の進展及び結果は、第 19 回「対話と協力」フォーラムの枠組みにおいて評価される。SICA 諸国は 2021—2025 年地域協力 5 か年計画の改定への関心を表明。
- 1 6. SICA 加盟国は、「中米広域防災能力向上プロジェクト（BOSAI）フェーズ 2」の実施を通じた日本の SICA 諸国に対する協力と支援の成果を高く評価し、日本に対する感謝の意を表明。また、日本側は、SICA の要望を考慮しつつ、他国との三角協力の実施も含む災害リスクの包括的管理に関して、CEPRENAC（中米防災調整センター）との共同連携の下で引き続き協力することへの関心及び意思を表明。
- 1 7. 日本は、SICA 加盟国が、2030 年に向けた温室効果ガスの排出削減のための政策を推進し、1,000 万ヘクタールに及ぶ悪化した土地や生態系の回復及び保全を促進し、農業、林業及びその他土地利用セクター（英語略称 AFOLU）において、カーボン・ニュートラルの達成を目指す地域イニシアティブを表明している COP25 に向け共通ポジションを表明したことに対し、その取組を高く評価。

双方は、パリ協定の枠組みにおいて、気候変動危機緩和のための支援として、温室効果ガス排出を最小限とするための政策及び行動を策定するため、引き続き取り組むことへのコミットメントを再確認。

18. SICA 加盟国及び日本は、中米安全戦略実施のための国際社会による支援の重要性を強調。右観点から、SICA 加盟国は日本に対し、国際社会が関連プロジェクトで実施してきて取組に日本も参加するよう呼びかけ。
19. 双方は、JBIC「質高インフラ環境成長ファシリティ（QI-ESG）」の下でのクレジットラインを活用した SICA 加盟国におけるインフラ整備を含め、日本との協力関係の深化につき BCIE（中米統合銀行）により表明された関心を認識。
20. 双方は、抜本的、統合的、包括的、効果的かつ民主主義的な国連改革のため、引き続き取り組む重要性を強調。さらに、国連憲章の目的と原則に応えるため、より効率的な組織とする目的の下で、より高い代表性、実効性及び透明性を達成するため、迅速な国連安保理改革の必要性を強調。
21. 双方は、2021 年に日本にて、第 19 回日・中米「対話と協力」フォーラムを開催することで一致。
22. 双方は、本フォーラムを成功裡に終わらせるべく果たされたエルサルバドル政府による対応に対する感謝の意を表明。

2019年12月3日
エルサルバドル、アンティグオ・クスカトラン